

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 新居和夏

【はじめに】

この度、交換留学生として、2025 年 3 月 3 日～2025 年 3 月 28 日の間、タイにあるシーナカリンウィロート大学へ留学しましたので、報告致します。

今回の留学では、現地の先生や学生との交流を通じて日本とタイでの薬学教育や文化の違いを学ぶことと、英語能力の向上を目標にタイへ渡航しました。約 1 ヶ月間、授業や病院実習に参加させていただくことで多くのことを学ぶことができました。また、現地の人と交流することで英語を話すことへの抵抗が軽減されたように感じました。

【学校生活】

1、大学について

シーナカリンウィロート大学はタイにある国立大学で、バンコクとナコンナヨックの 2 箇所にキャンパスがあります。私たちは、薬学部のあるナコンナヨックのキャンパスで過ごしました。タイでも薬学部は、日本と同じく 6 年制ですが、pharmaceutical science と pharmaceutical care の 2 つの専攻に分かれています。

キャンパスはとても広いため、学生は無料バスやバイクなどを利用して移動していました。学内にはレストランやカフェ、マーケット、コンビニ、マッサージ店、薬局、ジム、ネイルサロンなど日常生活に必要な施設が揃っており、学生以外にも幅広い世代の方で賑わっていました。



薬学部棟



寮

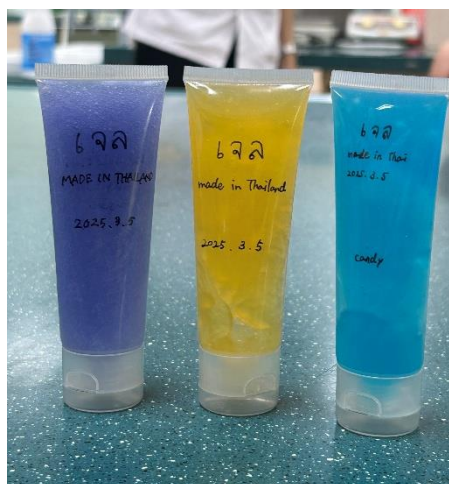
2、授業

2 年生のサポニンや強心配糖体などが本当に植物に含まれているのかを確認する実験や、3 年生の製剤の実験、タイの伝統的な薬について学ぶ実習に参加しました。タイ語での授業だったため、理解できるか

不安でしたが、英語のレジュメを用意してくださったり、学生が英語に訳してくださったりしたため楽しく授業に参加することができました。先生や学生同士の会話が活発に行われており、効率よく実験が進められていて感心しました。また、先生の説明後に forms を活用して確認テストを行うなど、アウトプットをする機会が多いと感じました。他にも、タイではラットやマウスなどの実験動物を用いた実験を行わないことや、打錠機を組み立てて錠剤を作る技術のテストがあることなどを学びました。

実験の他にも、5年生とジェル作りをしたり、5年生の研究活動の様子を見学させてもらったりしました。ジェルづくりでは、粉が溶けにくいなど苦戦することもありましたが、協力しながら作ることができました。ジェルの色や香りを多くの種類から選ぶことができ、お気に入りのものを作ることができたので嬉しかったです。また、研究活動では、サンドイッチ法を行っていました。先生の手を借りずになぜこのような結果になったのかななどを学生同士で話し合いながら進めていて素晴らしかったです。

日本とタイで実験する内容に大きな違いを感じませんでしたが、タイは日本よりも植物を用いた実験が多いように感じました。



ジェル



打錠機

3、薬局見学

大学のプラザ 2 階にある薬局を見学させていただきました。そこには、医薬品やハーブ、鼻うがい用のシリンジ、大学ブランドの保湿クリームなど、様々なものが売られていました。薬局には薬剤師が常駐しており、患者の症状などを聞き出して適切な医薬品を処方していました。アットホームな雰囲気で、薬剤師に相談しやすそうだと感じました。



薬局

【学外施設訪問】

1、病院実習

留学中に3度、病院実習に参加しました。今回訪問した病院は生活習慣病を中心に診療している病院でした。薬剤師は処方箋の監査、医薬品の取り揃え、服薬指導を行っていました。私は、医薬品の取り揃えを手伝わせて頂きました。1枚の処方箋で最大90日分まで処方できるため、一度に何百個もの医薬品を渡すことがあり数えることが大変でしたが、終了後には達成感を味わうことができました。医薬品は処方袋に入れるのではなく、薬名や服薬方法、患者名などが記載されているシールを貼ったジップロックのような袋に入れていました。服薬時間で分けるのではなく、医薬品ごとに分けていたので驚きました。また、現地の学生は服薬指導も行っていました。患者と会話をしながら服薬方法や処方薬の変更点の確認などを行っており、日本とあまり変わらないと感じました。しかし、患者の待つ場所や服薬指導を行う場所は屋外だったため、少し暑かったです。

日本では病院と薬局とで、診療する場所と薬を処方する場所が異なりますが、タイではどちらも病院で行われるため、患者の負担が少ないなと思いました。



病院



扱った医薬品

また、大学から車で20分程のところにある植物園を訪問しました。敷地がとても広く、半分ほどしか見学出来ませんでしたが、ハーブやバナナ、レモンなど、日本ではあまり見ることでできない植物を観察することができたのが良かったです。また、レモングラスやハーブなどの匂いを嗅いだり、上に投げると回転しながら落ちる花などで遊ぶことができたりして、興味深かったです。



植物園

4、タイ国立科学博物館

大学から車で 1 時間弱のパトゥンタニ県にあるタイ国立科学博物館へ先生方が連れて行ってくれました。建物はラマ 9 世博物館と科学博物館の 2 つにわかれていました。ラマ 9 世博物館には元国王であるラマ 9 世に関する展示がされており、科学博物館は 6 階から成る建物でタイの文化や科学、宇宙に関する展示がされていました。シルクやハーブなどタイならではの展示もあり、昔の暮らしについて学ぶことができとても勉強になりました。また、体験型の展示が多く、楽しみながら学ぶことができました。説明文がタイ語と英語のみだったため内容が難しいこともありましたが、先生に口頭でも説明して頂き理解することができました。



国立科学博物館



国立科学博物館 2

【国際交流】

現地の学生とディナーに行き、タイ料理の一つであるムーガタやスシローで寿司を食べることができました。学生とはアニメの話で盛り上がるが多かったです。私が見たほとんどのアニメを知っており、とても驚きました。また、アニメの影響などで日本語を学んでいる学生が多く、勉強熱心な学生が多いと感じました。日本語で話しかけてくれた時は嬉しかったためタイ語を少しでも覚えて帰国したいと思い、モチベーションが上がりました。他にも、週末にアユタヤを案内してもらったり、英語でゲームを楽しむイベントに参加したり、スポーツデーというイベントを見学するなどしました。英語をうまく話せず、困らせてしまうこともありましたが、優しく接して下さったのでタイの文化や大学の雰囲気など、様々なことを知ることができました。



ムーガタ



アユタヤ観光

【最後に】

今回の留学を通して、日本とタイの違いをたくさん知ることができました。タイでは英語や意外にも日本語や中国語を話せる学生が多く、薬学に関すること以外にも勉強熱心な学生が多かったため、刺激を受けました。また、私の語彙力が乏しかったり、思っている英語の発音と違う単語があったりしたため、知っている内容でも英語になると理解できないことがありました。そのため、より英語を勉強しなければならなかったと感じました。

タイの文化や薬学教育などについて多くのことを学ぶ機会をくださった大阪医科薬科大学薬学部とシーナカリンウィロート大学の先生・学生の方々に深く感謝しております。今後の生活に今回の経験を活かしていきたいです。